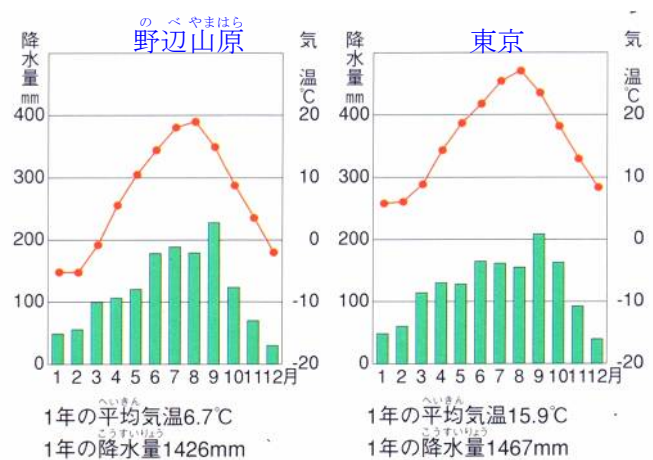


長野県の野辺山原は、山梨県との県境にある(1…火山名)の
すそ野に広がる高原です。標高(海面からの高さのこと)が
1200～1600m のところに位置しています。



ここを走る J R 小梅線の野辺山駅(標高 1345m)は、
日本で最も高いところにある駅です。

野辺山原の土は、八ヶ岳の噴火の火山灰が積もって
できたためやせています。そのため農業には向かない
地域でした。そして、年間の平均気温は北海道の札幌市
よりも低く、7月でも東京の(2…?月や?月)とほぼ同じ
くらいで、真夏でも 25℃をこえることはほとんどあり
ません。最も寒い1～2月には マイナス 20℃になる日があり、
土が 1m も凍ってしまうこともあります。



さかんな高原野菜づくり

野辺山原では、夏から秋にかけてレタス・キャベツ・白菜
などをつくっています。これらの野菜は気温が高いと病気
にかかったり、虫に食べられたりしてよいものできません。

また、平地では冬に取れる野菜が、涼しい高原では(3…季節)にとり入れるため、
季節をずらして出荷することで高い値段で売れるためです。

また、夜の冷えこみがきびしい高原では、よく(4…写真)がかかりますが、これが
日光をさえぎり、日照りの害を防いで葉をやわらかくしてくれています。野菜は
育ちすぎるとかたくなって売り物にならないのです。こうしたことから高原での野菜づくりがさかんになりました。
そして、こうした野菜を(5…?野菜)といいます。グラフは 白菜・キャベツ・レタス を表しています。
それぞれを答えなさい。



(6) 2022 年			
長野 33.0 %	茨城 15.7 %	群馬 10.3 %	その他

長崎 6.7%¹

(7) 2022 年			
ぐんま 群馬 19.5%	あいち 愛知 18.4%	ちば 千葉 7.5%	その他

茨城 7.3%¹

(8) 2022 年			
茨城 27.9%	長野 26.7%		その他
群馬 3.1%		埼玉 2.8%	



木の根を掘り起こす人々

荒れ地を開拓する人々

むかしの野辺山原には、荒れ地が広がっていました。作物をつくるためには、土の中の石や木の根を取り除かなければならず、力のいる大変な作業です。

また、冬の厳しさもあって、たえられずにほかの地域へ移っていった人も多くありました。しかし、戦争が終わり、戦後の食糧難のときに、多くの人が協力して

(9…荒れ地を開いて畑などをつくること)をすすめ、現在のような野菜の大産地に発展していったのです。

栽培の工夫

ビニールハウスの中で野菜の苗を育ててから畑に植えます。畑は穴の開いたフィルムでおおわれています。その理由は、①気温の変化から作物を守るため。②畑の(10)が風に飛ばされるのを防ぐため。…この(10)は火山灰土のため、かわきやすくて飛びやすいのです。③作物が乾燥するのを防ぐため。

④葉の裏に土がついて病気になるのを防ぐためです。

また、昔は苗を手植えて1本ずつ植えていったため、腰が痛くなる重労働でした。今は、台のついた車で座ったまま植えるなどの工夫がなされています。



新鮮な野菜をとどける工夫

高原野菜は(11…?月～?月)に収穫して、箱に詰めています。その後、(12…?組合)の検査を受け、病気になった野菜や傷んだ野菜は取り除かれます。

出荷される野菜は、予冷庫で5℃くらいに冷やして保存され、運ぶときは冷やしたままで、右の(13…?トラック)で市場へ送られています。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
レタス		たねまき					植えかえ	
キャベツ		取り入れ						
はくさい								

こうしたしくみを(14…?チェーン)、またはコールドシステムとよんでいます。

農業協同組合では、コンピュータで各地の野菜の値段を調べ、最も高く売れるところの送り先を決めています。



観光地としての野辺山原

野辺山原には夏の暑さを避けて訪れる避暑客や、冬のスキー客などの観光客がおとずれています。地元の経済を潤してくれる反面で、これらの客が捨てていく空き缶やゴミの処理が問題になっており、観光と農業の調和がこれからの課題です。



アイスキャンドルフェスティバル(2月)

野菜をつくりすぎると

野菜は(15…?山)のふもとにある群馬県の(16…?村。ひらがな可)、長野県や北海道などでもつくられて競争がはげしくなっています。

しかも、取れすぎたら値段がとて安くなってしまい、収入が減ってしまいます。このように、豊作になったのに損をしてしまうことを(17…?びんぼう)といいます。これをさけるため、取れすぎた野菜はつぶしたり捨てたりすることもあります。トラック

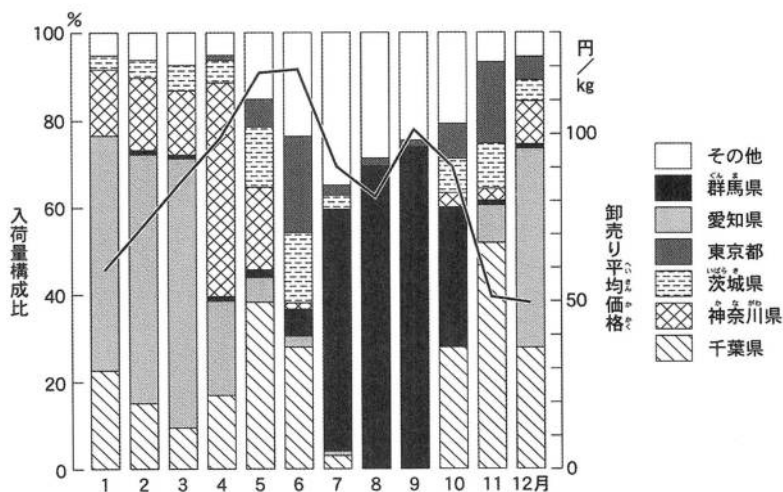


代や輸送の燃料などの方が高くなってしまうためです。



グラフは、東京都卸売市場における、ある年のキャベツの入荷量の上位6県を示したものです。

このグラフを読み取って、東京にキャベツを出荷する県の変化をあらわす下の文について答えなさい。



○夏は(18…?農業)の群馬県から、冬は低地で栽培する愛知県からの入荷が多く、春と秋は(19…?農業)の愛知県や千葉県からの入荷が多くなっている。